

栗山町まちづくり懇談会 議事録

日時：令和4年10月29日（土）18：30～19：53

場所：湯地公民館

出席者：7名

1. 開会

2. 町長挨拶

※配布資料確認および日程説明

3. 懇談

- (1) 第7次総合計画の策定について
- (2) 自由懇談

4. その他

○空き家相談窓口チラシ参照

5. 閉会

《懇談内容》

【自由懇談】

町民：ポプラ団地は今後どうなるのか。234号線沿いであの辺は店が多く、中学校も近くにあるのでうちちょっと見栄え良くなれば良いと思う。将来的な考えがあれば教えて頂きたい。

町長：ポプラ団地と母子ポプラの2つの公営住宅があるが、現在1件入居の状況。町の計画としては、今後河川の改修が進んでいくのに併せて解体するという計画になっています。中里団地などの改修が進んでいきますので、それに合わせて入居されている方にご了解をいただき、移転していただいた後に取り壊すという予定です。跡地活用については河川改修があったとしても、まだ町有地が残ります。その整備計画については未定となっています。また、王子の森についてですが24ヘクタールと広大な敷地で、もともとは町民の皆さんの憩いの森、50年間にわたって愛されてきた非常に大切な場所でありました。前々からその場所を町の方で活用できないのかという町民の皆さんの意見が出ていたのですが、所有者が王子ホールディングスとなります。今は研究所が取り壊され森林も伐採されている。町としても色々と活用策について検討していたことから、先日上京した際に本社に伺い、町の考え方も話をしてきました。今のところ王子ホールディングスとして

は、薬草畑を整備するという話ですが、24ヘクタール全てやるわけではないので、その一部でも町に譲っていただければ、前の憩いの森として再生したいと考えていますのでこれから粘り強く話をして、ワーケーション施設やキャンプサイトなどの計画を持っていますので、町にとっても歴史的に重要な場所でもありますので何とか進めていければと思っています。

町民：栗山高校と介護福祉学校の学生確保対策として、例えばITとか語学を学べる専門的なコースの創設などは難しいのでしょうか。

教育長：新たな学科を新設するのは、2間口規模の学校ではできないことになっています。

新聞報道などでも間口撤廃の話はあったと思いますが、現段階では4間口以上なければ新しい学科を創設することができない決まりがあり、大きい学校でしかできない。今まで農業学科、体育学科を創るなど色んな案はありましたが、そういったことができない制度になっているということをご理解いただきたい。ただ、そうなるとなかなか間口を維持できないということもあります。女子野球だけでは高校もなかなか先に進められないということで、文部科学省の高専一貫プログラムという事業があり、年間2千4百万円というものですので、色んな自治体から手が挙がっていたのですが、全国で1カ所ということで栗山町に先月認可がおりました。議会も10月の補正で了承いただいたところです。その基盤があって、道教委から栗山高校で全国公募できるということに繋がっていきます。女子野球部に関しては、神奈川、東京から福祉を学びながら野球をしたいという方が各1人います。女子野球に関して皆さん心配されているかと思いますが、何とか1チームできそうという段階までできました。しかしながら、3者面談が11月にあり、ここで中学校3年生は大体進学する高校が決まってきます。まだまだ揺れ動いている子供たちもたくさんいると思いますので、まだまだ気が抜ける状況ではありません。いまは校長と監督、私とで説明してほしいという要望があれば道外へも足を運んでいます。今のところは何とか1チームできるという所まではきている状況です。それから、2間口堅持ができなければ女子野球があってもどうしようもありません。この2間口も何とか栗山中学校から30名を超えてほしいなということで、子供たちや保護者へ色んな魅力を伝えている。例えば、栗山高校は今まで個別学習というのをしていませんでしたが、国公立大学へ行きたい子供たちへは個別のメニューをつくり出すという形で、学校説明会で校長に説明していただいています。これは空知全中学校へ説明してきています。例えば、旭川教育大学や室蘭工業大学などのレベルであれば、3年間で個別のカリキュラムをつくり合格させていくという高校が何校もあり、そういったノウハウについて高校の先生に研修を受けてもらっている最中です。そういった形で高校改革をどんどん進めていく中で、2間口でありながら普通科をどう活かしていくかというところで魅力化を進め、道教委との連携、文部科学省事業も進めていくという流れになっています。まだまだ予断を許さない状況でありますので、揺れ動いている子供たち・保護者の願いを確固たるものにできるよう努力しているところです。

町民：生活環境のＡＥＤを活用した救急講習に関わる予算がないが、ＡＥＤは使用期限があり更新には予算がいると思う。また、講習用にも必要だが、実際の緊急時に使えるようたくさんあった方が良くと思う。町内にはＡＥＤが何台くらい設置しているのか。

副町長：設置台数についてははっきりした数値は今お答えできませんが、各公共施設には整備されています。言われたとおり電池やパッドの更新時期もありますので、それらの予算については施設ごとのそれぞれの事業予算としており本資料には出ていません。当然、定められている期限の中で随時更新も行っています。

町長：東山公民館での懇談会の中で、ＡＥＤを公民館や公共施設に設置しても、農村地域ではそこまでの距離もありますので、個人で購入する場合にも助成制度を設けていただきたいという意見があり、そういったことも検討していきたいと思っています。個別となるとかかなりの台数にもなり、予算にも限りがありますが検討したいと思っています。

町民：１台いくらくらいなのか。

教委総括：個人購入の場合、２０～３０万程度で高価なものです。また７年くらいを目処に更新もありますので、個人所有したときに７年後どういうふうにしていくのかについても課題はあります。また物があるだけではなくて何かあった時のために使えるよう講習も必要になりますのでセットで考えていかなければいけない。

町民：各学校には置いていますか。

教育長：置いています。教師も毎年必ず講習を受けています。

町民：栗山レンガ倉庫の活用の関係は資料のどこを見ればよいか教えて下さい。

町長：１０ページの（３）の部分。今整備がほとんど終わって、年明け１月プレオープン、４月に本格オープンを予定しています。あそこにはものづくりＤＩＹ工房、まちなかレストラン、実際の開局は少し先になるがＦＭ局、それから多目的広場でいろんなイベントを開催できる施設としている。先日建物の中を見させてもらったが、元は農協の倉庫で何もなかったところでしたが、素晴らしい施設に生まれ変わったなと思います。作っただけではなく、これから具体的に観光振興計画を作成し、どう活用し集客力を上げていくか、採算性をしっかりとっていくかの計画を作っております。あの施設がにぎわいの拠点となるような施設にしていきたいと思っています。あそこの建物だけが目立ちますが、駅を中心とした都市再生整備計画事業の一部であり、全部で１５億円の事業となります。そのうち９億円が道路整備で９本の町道整備を行っています。かなり老朽化していましたので、この都市再生整備計画事業を使って環境整備をしたというものです。この９路線を普通補助事業でやると２０年以上かかるのですが、それを都市再生整備計画事業に組み込んだことにより、５年間でできたということになります。交流拠点施設で３億円、外構や周辺整備で３億円、道路整備と合わせて１５億円ということになります。１５億円のうち６億円が補助金、残り９億円が有利な起債を借りておりまして、実質的な町の負担３億円がこれから２０年かけて年間１千５百万円を返していきます。言い換えれば３億円で１５億円分の事業ということになります。あとは我々がしっかり努力して、集客のある施設にする

こと、採算性がしっかりとれる施設にしていくことに注力していきたいと思っています。FM局、ものづくりのファブラボについては、新しい会社を地域づくり協力隊の方たちがつくりました。自分たちが会社組織をつくってあの施設を活用するという形になってきています。

町民：町内に空き家は何件くらいありますか。

若者定住推進課長：300件近くあります。空き家の台帳が建設課にあり、建設課とも連携していますが、所有者がわかっている物件もあるが連絡が取れない方もいます。まだ空き家に登録されていない物件もありますので、そういったものを掘り起こして危険空き家とならないように活用することを進めていきたい。

町民：町外の方が町内に入ってくる場合、どのような支援制度があるのか？

若者定住推進課長：若者定住ということで40歳以下の方、もしくは中学生以下のお子様と一緒に住んでいる方については、新築で建てた場合、基本額80万円、町内企業で建築した場合はプラス20万円、エコビレッジに建てた場合はプラス20万円で最高120万円。中古住宅の場合は、30万円の上限になります。ただしリフォームもあり、中古住宅を購入しリフォームする場合はプラス30万円で最高60万円という補助制度となります。

19：46 終了